

## 現状分析に用いる指標の例

資本コスト	資本収益性	市場評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>WACC (負債-株式の加重平均資本コスト)</li> <li>株主資本コスト (投資者の期待リターン) など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ROIC (投下資本利益率)</li> <li>ROE (自己資本利益率) など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>株価・時価総額</li> <li>PBR (株価純資産倍率)</li> <li>PER (株価収益率) など</li> </ul>

- ※ どの指標を用いるかについて一律の定めはありませんが、投資者ニーズ等を踏まえ、ご検討ください。
- ※ 資本コストは、現状分析を目的として把握をお願いするものであり、必ずしも精緻に算出していただくことが目的ではありません。
- ※ 東証では、資本コストやROEの考え方等について、セミナー資料やeラーニングの提供を行っておりますのでご活用ください。

東証 企業価値向上経営セミナー・シンポジウム : <https://www.jpx.co.jp/equities/listed-co/award/03.html>

東証 企業価値向上経営 eラーニング : <https://www.jpx.co.jp/equities/listed-co/seminar/e-learning/index.html>

## 分析・評価の観点とポイント

分析・評価の観点 (例)	ポイント
<p>資本コストを上回る資本収益性を達成できているか、達成できていない場合には、その要因</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資本収益性の分析・評価にあたっては、WACCとの比較でROICを、株主資本コストとの比較でROEを利用することなどが考えられます。</li> <li>また、全社での分析・評価に加えて、事業セグメントごとにROIC等を算出して、資本収益性の分析・評価を実施することも考えられます。</li> </ul>
<p>資本コストを上回る資本収益性を達成できていても、たとえばPBRが1倍を割れているなど、十分な市場評価を得られていない場合には、その要因</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資本コストを上回る資本収益性を達成できていても、PBRが1倍を割れているなど十分な水準に達していない場合には、成長性が投資者から十分に評価されていないことが示唆されます。</li> <li>PBR・PER等は、時系列の変化や、同業他社との比較などの観点でも、自社の現状について分析・評価することが考えられます。</li> </ul>